

第39集

あかるい こころ

差別のない明るい社会を目指して



江府町人権・同和教育推進協議会

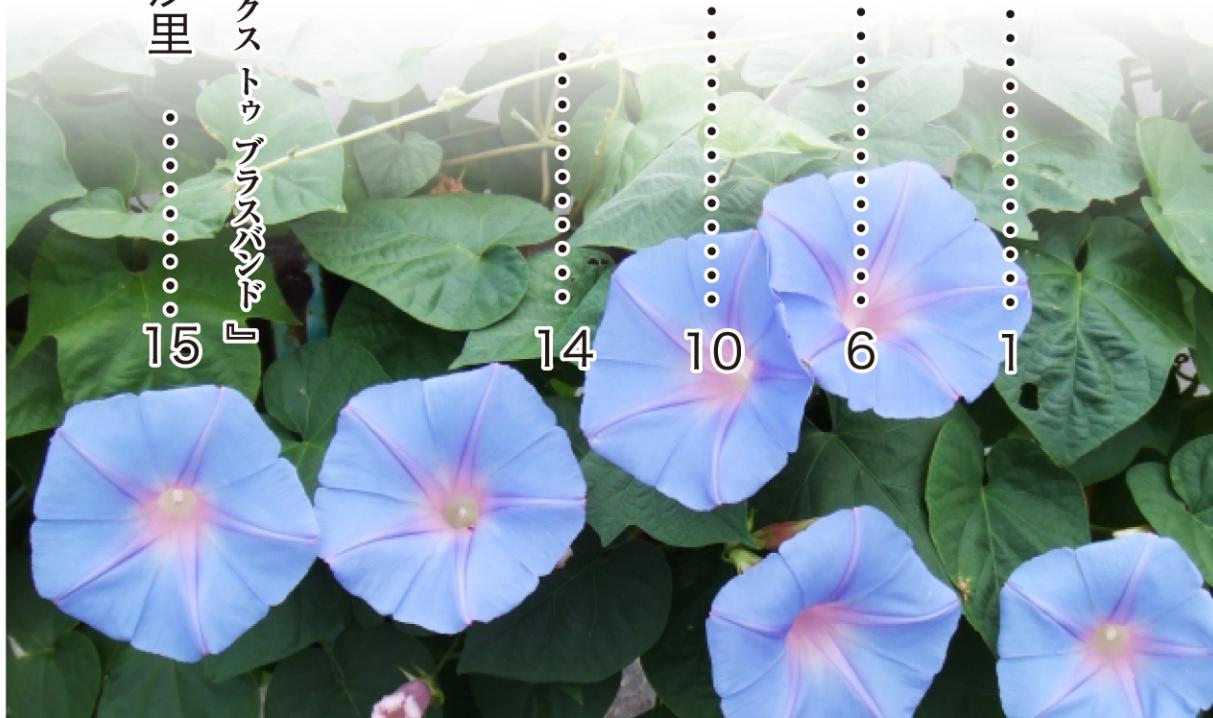
江府町教育委員会

目 次

明治一五〇年から何を学ぶか	•
性的マイノリティと人権	•
男女間の差別？あるよね！	•
第二十一回「人権・同和問題啓発作文」入選作品	
最優秀賞作品	
『Thanks to brass band サンクス トウ ブラスバンド』	

江府中学校 三年 水下 汐里

15
14
10
6
1



明治一五〇年から何を学ぶか

一八七一年（明治四）八月太政官は、「穢多非人の称廢せられ候条、今より身分職業共、平民同様たるべきこと」と布告しました。この布告の意味するところは、差別的名称で江戸時代に最下層に位置付けられた人々を一般民衆と同じに扱うと宣言したのです。
※注一 だ じょうかん

一七七八年（安永七）幕府が身分取締令を出し、鳥取藩が一七九九年（寛政十一）から追随して数度にわたる取締令を発して定着させてきた差別思想を、明治になつて同等であると宣言されても、一般民衆にとつては理解しがたい布告であったことは間違ひありません。政府が従来の施策の誤りを国民に説明することなく一方的に発信しただけで、意識の変革にはなりませんでした。

その証拠に、翌年実施された全国統一戸籍の戸籍簿には、従来の社会身分的な差別事項が記載されました。ようやく、一九六八年（昭和四十二）二月から閲覧できないことになります。したが、閲覧停止まで約一世紀を要したことになります。

※注一 太政官……明治維新政府の最高官庁

この布告は、もう一つ配慮に欠けるものがありました。それは、江戸時代被差別の人たちに与えられていた生活の糧が、なくなることを意味しました。竹細工、斃牛馬の処理、門づけの芸能、などを任せられていたことが、「同様」ということになり、だれでも行えることになつたのです。

また、犯罪追捕の仕事からも除外されることになりました。一気に生活のために劣悪な環境を強いられることになつてしましました。

教育はどうでしょうか。一八七一年（明治五）「邑に不学の戸なく、家に不学の人ならしめん」とうたいましたが、子どもも家業※注2:げんかくを支える一人であったり、授業料の納入、学校での厳格な試験があるなどして、通学できる者は一部でした。当初、被差別部落で、独自に学校を開いたところもありますが、教員やとを雇う費用の捻出ねんしゅつがままならず、数年で廃校はげこうに



なっています。このため、分校として学習の場が設定されますが、多くの場合、特殊部落として排斥された結果としての分校でした。
排斥 はいせき

このような中、一八九七年（明治二十九）『山陰の教育』十号^{※注3}では、鳥取県下の被差別部落一覧を掲載し、人口、児童総数、就学・不就学の人数をあげて、就学率の上がらないのは被差別部落に原因があると結論付けています。教育にしてこの認識でした。

政府は就学率向上のため、制度の整備を進める一方で、一九〇〇年（明治三十二）授業料を無料としたので、就学率は一気に向上することになります。また、学校教育が定着し、地域に教員がなじむことに伴い、社会教育分野にも期待されてきます。地域改善の意識の高まりの中で、矯風会（夜学）が開催されるようになります。このような中で、部落改善の一環として多くの村で伝統的な獅子舞などの門づけは廃止されることになります。

宗教はどうでしょか。浄土真宗は平等主義を掲げており、常に部落問題の解決を求める存在です。一九〇一年（明治三十五）五月慈善会財団が設立され、募金のために和歌山県に派遣された説教師龍華智秀師が差別発言を繰り返し、信徒が本山に訴える事件が

※注2「厳格な試験」…とても厳しい進級及び卒業試験があつた。
※注3「山陰の教育」…鳥取県教育会事務局が発行した機関紙。

発生しました。一ヶ月たっても本山からの反応がないため、全国の同志に経緯を知らせる檄文^{けいひ}を送るとともに、大阪朝日、大阪毎日の両新聞社にも協力を申し出て問題を公表しました。十一月になつて本山から処分が発表され、信徒に侮辱^{ぶじょく}を加えたことを理由に、龍華智秀^{りゆうかちしゅう}師は住職、巡教師を罷免^{※注5ひめん}され、太政官布告をもとに、心得^{ふじやく}で行動するよう通達^{つうだつ}がなされました。公文書によつて部落差別の不当性を通達した第一号となりました。

地租^{ちそ}(土地からの税)^{ぜい}改正は、富国強兵・殖産興業^{ふこくきょうへい・じくさんこうぎょう}などを推進^{すいしん}する政府にとって、地租以外に頼るべき収入源^{しうりゆう}のない状況の中、「旧来の歳入^{さいにゅう}を減ぜざる」を目的として行われただけに、土地改革であるとともに旧年貢水準^{ねんぐすいじゅん}を継承^{けいしょう}した高額地租をめざした租税改革でした。加えて国民の兵役義務^{へいえきぎむ}を定めた徵兵令^{ちようへいれい}が出されるに至つて、国民の不満^{いた}は頂点に達しました。さらに学制公布^{がくせいこうふ}となり、一八



七三年（明治六）会見郡（現西伯郡の一部）では六月十九日から一三日にかけて一万二千人の参加した大一揆^{いつき}が発生しました。

一般の人たちにしてこの状況でしたので、生活の糧を失った被差別部落における窮状はさらに厳しいものがありました。このような中、江戸時代を懐かしむ風潮^{なつかう}が存在しました。明治時代は、江戸時代の遺風^{いふう}が混在^{こんざい}した時代といえます。

明治時代、日本は天皇を中心とした国の急速な近代化を進め、立憲政治を実現して日本に清、日露の戦争を経て国際的地位を得た一方、四民平等^{しみんびょうとう}の施策は推進されませんでした。差別の実態の認識^{にんしき}が、「矯風会」の開催にみられるように、差別される側に責任があるとしてその後進性の改善が求められ、根本原因に目を向けられることはませんでした。そして、「特殊部落^{こうしんせう}」が定着し、その詳細な一覧表^{しようさい}が公表されて、新たな差別意識の出発点となりました。課題解決は、次の大正時代へと引き継がれます。

明治一五〇年、あなたは「明治時代」をどう思いますか。

※注4 「檄文」…自分の考え方や主張を述べて大衆に行動を促す文書、励ましの文書。

※注5 「罷免」…職務をやめさせること。

性的マイノリティと人権

皆さん、性的マイノリティについて知っていますか。

私たちの周りには当たり前に同性を好きになる人や、自分の性に違和感がある人など様々な人がいます。

今の社会で「異性を好きになるのが普通」「性の在り方は男と女だけである」などという「これが普通」「いつあるべき」だと思われている「性のあり方」に当てはまらない人たちのことをまとめて指す言葉を「性的マイノリティ」、「性的少数者」とも言います。

最近では、

Lesbian(レズビアン)【女性同性愛者】

Gay(ゲイ)【男性同性愛者】

Bi-sexual(バイセクシュアル)【両性愛者・両性に惹かれる人】

Transgender(トランジェンダー)【体と心の性に違和感のある人。体の性別と異なる性別で生きる(生きたい)人。】

この頭文字をとつて「LGBT」とも呼ばれます。

その他にもXジェンダーなど様々な性のあります。※注6

多様な性について

一般的に性は、「男」と「女」の2つに分けて考えがちですが、これは、生まれつきの「体の性」(戸籍上の性)で決められています。しかし「体の性」と「心の性」は必ずしも同じとは限りません。また、好きになる性も異性だけとは限りません。「心の性」や「好きになる性」は男と女に明確に分けられるものではなく、100人いたら100通りの性の在り方があります。「セクシュアリティ」は他人が決めるものではありません。

※注6 「Xジェンダー」…性別を男女二分することにはなじまない人



その人だけの性のあり方があり、それは本人に聞かないと分かりません。」このような性の在り方の事を「セクシュアリティ」と言います。

では、性的マイノリティの人はどのぐらいいるのでしょうか。

様々な調査によつて、人口の約5%前後というデータがあります。そしてそれは、世界のどの地域、どの時代にも同じ割合と考えられています。これは、学校のクラスに1人の割合となります。

しかし、その存在に気づく人はなかなかいません。外見でわかることではないといふこともありますが、なにより本人が隠さざるを得ないからです。

誤解や偏見のある社会の中では、「言つたら嫌われるかもしれない」「気持ち悪いと思われるかもしれない」等、様々な不安があり、自分の生活を守るために、そう簡単に周りに話すことのできない状況にあります。

一人一人違つて当たり前であるのに「違い」を理由にいじめや差別をする人が世の中には少なからずおり、そのため、ありのままの自分を隠して生活をする人が多いのが実情です。

では、そのように様々な人がいる中で、性的マイノリティの人々が直面する問題を見ると、

○パートナーが同性の場合、パートナーが事故にあっても法的な親族でないため連絡がもらえ

ない、面会できない、手術の同意書にサインが出来ない場合がある。

○心の性と異なる性の制服を着ることに違和感がある。
○トイレはどちらに入ればいいのか、人目が気になつて我慢してしまう。

○履歴書の性別欄にどちらの性別を書けばいいのか悩む。

など生活の様々な場面で生きづらさを感じる要因となっています。

あなたの周りにも性的マイノリティの人はいます。あなたの何気ない言動が知らないうちに大切な人を傷つけているかも知れません。

あなたも含めすべての人があなたの性の中の一人です。誰もが自分らしく生きやすい社会をつくるために、「性のあり方」について正しく知り、考えていきましょう。

鳥取県総務部人権局 人権・同和対策課「性的マイノリティの人権 多様な性について考え方」誰もが自分らしく生きやすい社会をつくすより

心の性と異なる性の制服を着ることに違和感がある。



パートナーが同性の場合、パートナーが事故にあっても法的な親族でないため連絡がもらえない、面会できない、手術の同意書にサインが出来ない場合がある。



男女間の差別？ あるよね！

ある日の午後、連休を利用して帰郷した友達を囲んで仲良く過ごす3人の楽しそうな会話が聞こえきました。『A子ちゃん元気だった？ ずいぶん頑張つてゐみたいね。』『少しはね。でも都会で働くって大変なのよ、特に子どもを育てながらのお勤めはね。』と言つて会社や家のことなどを話し始めました。会社には電車で通うこと、雇用条件に男女の差はあまり感じられないこと。共働きのこと。子どものことなどあれこれと話しています。

特に子どもが病気になると夫も協力はしてくれますが、たいがいは自分が会社を休んで病院に行くそうです。そして家事をしながら溜たまった仕事のことを考えると余計に疲れるとか。『なんか女つて損よね。』

それを聞いていたB君が言います。『ほんとに大変だと思うけど男はもつと大変だからね。』と自分のことを話します。責任のある地位ちいにいること。報酬ほうしゅうのこと。やはり通勤電車は疲れること。セクハラやパワハラと言われないように気を付けないといけないことなど。最近では男のほうがいろいろ言われるのでほんとに大変と言います。

『だって、都市部では女性専用の電車だつてあるし、レディースデイと言つていろいろなサービ



スを受けて優遇ゆうぐうされているんだよ』『あら、それは昔から女性が差別を受けて虐じいたげられていたからよ、だつて、単純な作業ばかりで賃金も男性より少ないからまじめな女性に社会がご褒美ほうびをくれるのよ』と言い出したのは地元で暮らすC子ちゃんです。B君曰く『ほらそれだよ、昔は別として今は、そんなことないのに…』と少し不服氣味ふくぎみです。『A子ちゃんはどう思う?』『さうね、報酬が同じだと、同じ仕事をこなさなくちゃって、負担は大きいわね。だから簡単に休めないのよね』『B君。おうちの仕事ちゃんと分担してる? 奥様さま任せじゃないの。』『もちろん、やってるつもりだけどそつ言わればそつだよな』と肩かたをすくめてみせるB君です。

男女平等、男女同権が叫ばれて久しいにもかかわらず、女性と男性の間の相互理解はいまだ深まりを欠いたままのようです。なぜなのが私たちにはしっかりと考えてみる必要があります。

最近の事例では、緊急事態が発生した大相撲の土俵上に女性があがることが制止されましたし、よく見かける光景として使用中の男性用公衆トイレを女性が清掃しています。スポーツ施設の男性脱衣場の係は多くは女性です。もしこれが逆ならどんな反応があるでしょう。また、食事の後の家族団欒のさなか、多くの場合あと片付けは、女性がするというデータもあり



ます。更には育児休暇について女性は比較的取りやすいものの男性の場合は抵抗がある、などがあります。

今述べた事例は現実にある事象です。残念ながら日本ではいまだに男女に対する差別が存在すると言わざるを得ないのです。

近年になりこれらを解決しようと様々な取り組みが行われ改善されつつありますが、まだ社会全体に浸透していないのが現実のようです。男女が互いに適性を認め合い同等に暮らしていくために差別に気付き一人一人が意識を改善し差別解消のための行動を起こすことが、社会の根底から差別をなくすことになるのだと考えます。

皆さんの周りにも、男女の格差や差別的なことがありませんか？これを機会にご家庭や地域で話し合ってみてはいかがでしょうか。明るい未来につながる第一歩になること間違いないなしです。

* (工事中のトンネルは二十一世紀になつても女人禁制の風潮ですが、町内のトンネル工事ではこの程多数の女性を含む見学会が開催されました。)

第二十一回「人権・同和問題啓発標語」入選作品

【小学生標語】

◆最優秀賞

手と心 つないでつくろう きずなの輪

五年 谷田 花奈

◆優秀賞

ひとりより きょううりよくすると すぐできる

一年 山下 健佑

わる口を いつてないかな きょうのぼく

二年 藤原 聖

「大じょうぶ」「がんばってるね」言われてうれしい まほうの言葉

三年 遠藤 佑花

これどうぞ こまつた人に 言いたいな

四年 岡田 翔愛

差別のない 明るい社会を 目ざそうよ

六年 村上 龍輝

(江府町が平成二十九年度に募集した啓発標語入選作です。)



第二十一回「人権・同和問題啓発作文」入選作品

【中学生作文】

◆最優秀賞

Thanks to brass band (サンクス トゥ ブラスバンド)

江府中学校 三年 水下汐里

みなさんには素直になれる場所はありますか？今では胸を張って部活です、と答えることができます。部活は自分が自分らしくいられる大切な場所になりました。

以前の私は、全員で一丸となり、何か一つのことをやり遂げる…。そういうどの部活でも言われる流れが嫌いでした。みんなで何かを成し遂げなければならぬに遭遇するといつも、私は壁の向こう側の存在でいました。「私なんかがいたら、邪魔になる。」とずっと隠れていきました。しかし、今思えば、それは自分から「みんなの中に入りたくない。自分がいなくても他の人がやってくれるからいいや。」という甘い思いで自分自身が壁を作っていたのです。

中学生になり、部活を決める時、入部体験も一、二回程度行つてみたくらいで、運動が苦手だし…という理由で吹奏樂部を選びました。しかし、吹奏樂部は思った以上にキツくて、しんどいものだということを入部してからわかりました。あまりやりたくないかった楽器に決まつたし、立っているのがえらいし、「何が吹いて奏^{かな}でて楽しいんだよ！私なんていてもいなくても同じなのに。なんで私がこんなことをやらないといけないんだ。」と全部投げ捨てたくなるような日々が続きました。

そんな時、私の目に留^とまつたのは、私たちと同じ時期に吹奏樂部に入部した、二つ上の先輩でした。その先輩は練習の時に手を止めたのを見たことがないくらい、練習熱心な人でした。同じ時期に始めたはずなのに、よくリズムや楽器についてのことを教えてくださいました。周りの人への気づかいをしているにも関わらず、自分のパートは完璧^{かんぺき}にできています。いつの間にか私はその先輩に憧^{あこが}れるようになりました。

「私も先輩のようになりたい！」と部活をがんばろうとしたけれど、あまりうまくいかず、よく先生に怒^{おこ}られたり、怒鳴^{どな}られたりもしました。しかし、コンクールでの演奏は、当時、あまり音楽の感覚がわからなかつた私でも何かを感じました。それは、間違えずにでき

たからでもなく、自分がいい音を出したからでもなく、一つの「音楽」になったからです。

誰一人抜けてはならない江府中の吹奏楽部がこの時一つになつたのです。この時初めてみんなで心を一つにすることは素晴らしい、と感じました。それと同時に私を覆っていた壁もなくなりました。

その後先生に、「ここ、良かつたよ。」

と言われ、「私の力が役に立つたんだ。私は邪魔じゃないんだ。」と思いつれしかつたです。今の江府中の吹奏楽部は一人、また一人と背中を見送る人が増えているし、雰囲気も緩くなっています。でも私は雰囲気に負けず、残りわずかの部活動で自分の「吹奏楽が大好きだ。」という気持ちを貫き通したいです。

みなさんも自分なんていってもいなくても一緒にだと思う時もあると思います。でも、どこかで自分を必要としている存在は必ずあります。だから、自分らしく生きて行ってください。

◆優秀賞

●「自分はどんな存在?」 江府中学校1年 岡田陽向

●「笑顔の力」

江府中学校2年 下村早希

(江府町が平成二十九年度に募集した啓発作文入選作品です。)

生涯学習基本テーマ
明日へ生きる私を求めて

第39集／2018年8月24日

印 刷 株式会社高下印刷
イラスト 永井 日香里